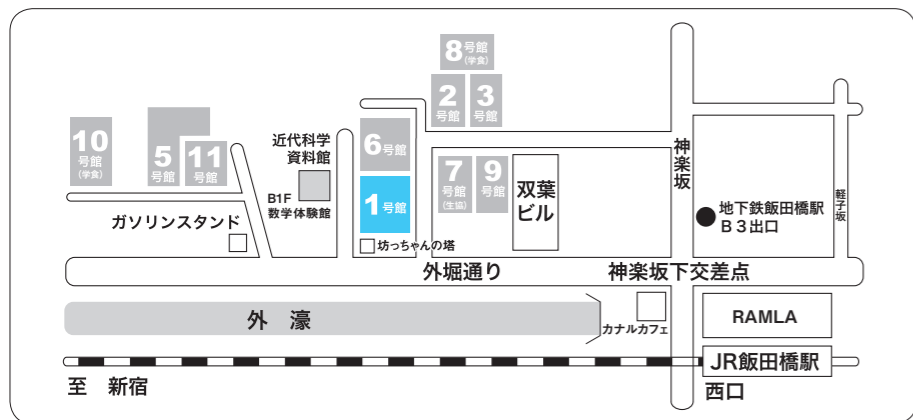
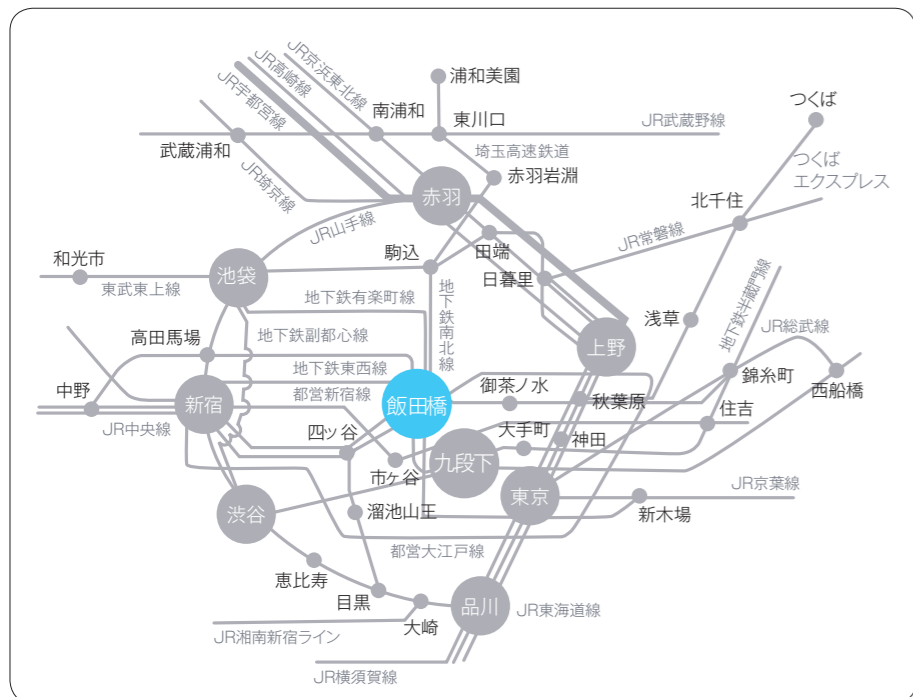


- JR 総武線・東京メトロ 有楽町線・東西線・南北線 飯田橋駅下車 徒歩3分
- 都営大江戸線 飯田橋駅下車 徒歩10分



国際科学オリンピックとは…

世界中の中等教育課程にある生徒(日本では主に高校生に相当)を対象にした科学技術に関する国際的なコンテストであり、「知のオリンピック」とも呼ばれています。国際科学オリンピックの始まりは、ルーマニアがハンガリー、ブルガリア、ポーランド、チェコスロバキア、東ドイツ、ソ連を招待し、名実ともに数学好きの子どもたちを集めて1959年に数学オリンピックを開催したのが最初です。主な目的は、この国際的な科学コンテストを通してすべての国の科学的才能に恵まれた子どもたちを見出し、その才能を伸ばすチャンスを与えること、その才能を伸ばすこと、国際交流・国際理解を深めること等を目的とし、各国の持ち回りで毎年開催されています。教科、科目、分野には、数学以外に物理、化学、情報、生物学、地理、地学があります。大会当日は、通常、それぞれ5時間に及ぶ理論試験(全科目共通)と実験試験(物理、化学、生物学)・実技試験(地学)等が出題され個人戦として競われ、総合成績の順に金メダル(上位ほぼ1割)、銀メダル(次の2割)、銅メダル(次の3割)がそれぞれ贈られます。

お申し込み方法

東京理科大学 教育支援機構 理数教育研究センター ホームページより申し込みください。

URL: <http://oae.tus.ac.jp/rcmse/>

お問い合わせ先

東京理科大学 教育支援機構 理数教育研究センター(事務局・学務部学務課(神楽坂))

TEL. 03-5228-7329 FAX. 03-5228-7330

E-mail: rcmse@admin.tus.ac.jp

URL: <http://oae.tus.ac.jp/rcmse/>

国際科学オリンピック ——メダリストの声

東京理科大学 教育支援機構 理数教育研究センター

平成27年度公開シンポジウム

参加無料
(要事前申込)

第4回国際科学オリンピック公開シンポジウムの開催に向けて



あきやま じん
秋山 仁

東京理科大学 教育支援機構
理数教育研究センター長

この公開シンポジウムには大きく2つの目的があります。

ひとつは若者たち(特に中、高校生)に科学に関心をもっていただき、未知の大海に眠る困難に次々と挑戦する契機としていただくことです。

そのため、国際科学オリンピックのメダリストたちから、オリンピックに参加したときの体験談を直に聴いていただき、討論をしていただけるように企画しました。

一方、指導者たちには、若者の能力を見つけ出し、その能力をどのように伸ばしていけば良いかについての手がかりを提示することです。指導者たちにとっては、生徒や学生一人一人が持っている磨かれていない「理系に向いている様々な能力(原石)」を見抜くことができるのかが大きな課題です。原石を見抜く能力こそ指導者としての重要な資質だからです。このような指導者が教育現場にいるかいないかが、新たに始められようとしている日本の教育改革の成功に大きくかかってくると主催者たちは考えています。

どうぞ奮ってご参加ください。

趣旨

国際科学オリンピックのうち、日本は数学(開始1959年・初参加1990年)、情報(同1989年・1994年)、化学(同1968年・2003年)、生物学(同1990年・2005年)、物理(同1967年・2006年)、地学(同2007年・2008年)、地理(同1996年・2000年)の7教科に参加中で、4度の主催(数学2003年、生物学2009年、化学2010年、地理2013年)を経験し、情報が2018年、物理が2022年に初主催が決定、生物学が2020年、化学が2021年に再び主催予定です。

一昨年・昨年の10月に開催した公開シンポジウムに続き今年度も、各教科から1名ずつ、科学オリンピックでメダリストとなった優秀な若手より、出場時の回想や、出場経験で得たもの、現在の視座から見たオリンピック出場の意義などを語っていただきます。

各教科の科学オリンピックで問われる能力と日本の高校理数教育との関連性、理数教育の改善に向けたヒント、科学オリンピック参加・主催の意義が浮き彫りになるでしょう。

また昨年より、グローバルサイエンスキャンパス(GSC)受講生向けプログラムの一環として開催しており、受講生に期待されている「国際科学技術コンテスト挑戦」のための貴重な参考になると考えます。

後援：文部科学省
国立研究開発法人 科学技術振興機構

日時

平成27年

10月18日(日) 13:30~17:20

場所

東京理科大学 神楽坂校舎
1号館17階 記念講堂

講師

柿田 恭良氏
(文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課長)

関 典史氏(数学メダリスト)

劉 鴻志氏(情報メダリスト)

遠藤 健一氏(化学メダリスト)

那須田 桂氏(生物学メダリスト)

中里 徳彦氏(地学メダリスト)

東川 翔氏(物理メダリスト)

プログラム **日程** 2015年10月18日(日) **会場** 東京理科大学 神楽坂校舎 1号館17階 記念講堂
 総合司会 東京理科大学 教育支援機構 理数教育研究センター 渡辺 正 氏

13:00	受付開始
13:30~13:40	開会挨拶
13:40~13:55	講演①「科学オリンピックと人材育成」 文部科学省 柿田 恭良 氏
13:55~14:10	講演②「数学オリンピック体験から」 数学メダリスト 関 典史 氏
14:10~14:25	講演③「情報オリンピック体験から」 情報メダリスト 劉 鴻志 氏
14:25~14:40	講演④「化学オリンピック体験から」 化学メダリスト 遠藤 健一 氏
14:40~14:55	講演⑤「生物学オリンピック体験から」 生物学メダリスト 那須田 桂 氏
14:55~15:10	休憩
15:10~15:25	講演⑥「地学オリンピック体験から」 地学メダリスト 中里 徳彦 氏
15:25~15:40	講演⑦「物理オリンピック体験から」 物理メダリスト 東川 翔 氏
15:40~15:55	休憩
15:55~17:15	パネルディスカッション 司会 国立研究開発法人 科学技術振興機構 ラオ ちぐさ 氏
17:15~17:20	閉会挨拶

講師紹介



柿田 恭良 氏
 文部科学省
 科学技術・学術政策局
 人材政策課長

講演① 科学オリンピックと人材育成

略歴

1989年、北海道大学工学部卒業。博士(学術)。科学技術庁に入庁し、原子力、宇宙開発等の国家プロジェクトを推進。その後、在カナダ日本大使館一等書記官、科学技術政策担当大臣秘書官、文部科学省基盤研究課長、(株)日立製作所出向などを経て、2015年6月より現職。人材政策課では、国際科学五輪の支援をはじめ、先進的な理数教育を実施する「スーパーサイエンスハイスクール」、高等学校段階の生徒が協働して科学的課題に挑戦する「科学の甲子園」、大学を中心とした国際的な科学技術人材育成プログラムを開発・実施する「グローバルサイエンスキャンパス」など、次世代の人材育成施策を担当。



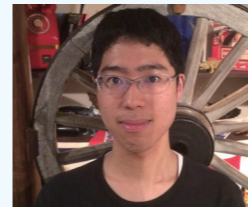
関 典史 氏

講演② 数学オリンピック体験から

数学オリンピック第48回ベトナム大会(2007年、ハノイ)銀メダリスト(灘高等学校2年生)、数学オリンピック第49回スペイン大会(2008年、マドリッド)金メダリスト(灘高等学校3年生)。2004年~2006年の数学オリンピック国内選抜にも参加。

ひとこと 高校時代に国際大会に参加できたことは貴重な財産になったと今でも思います。また、国内選抜に参加した中で得た人間関係は現在の数学の研究にも生きています。

東京大学大学院 数理科学研究科 数理科学専攻 博士課程 1年



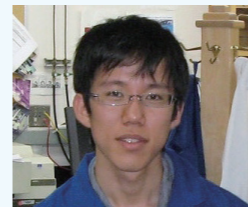
劉 鴻志 氏

講演③ 情報オリンピック体験から

情報オリンピック第24回イタリア大会(2012年、シルミオーネ)銀メダリスト(栄光学園高等学校2年生)、情報オリンピック第25回オーストラリア大会(2013年、ブリスベン)銀メダリスト(栄光学園高等学校3年生)。2011年の情報オリンピック国内選抜にも参加。

ひとこと 情報オリンピックを通じて、国内/国際大会で素晴らしい仲間と出会い、そして何かの目標に向かって努力することの楽しみを知ることが出来ました。結果は金メダルに届かなかったけれど、人生を変える貴重な経験となりました。

東京大学 教養学部 理科一類 2年



遠藤 健一 氏

講演④ 化学オリンピック体験から

化学オリンピック第41回イギリス大会(2009年、ケンブリッジ)金メダリスト(栄光学園高等学校2年生)、化学オリンピック第42回日本大会(2010年、東京)金メダリスト(栄光学園高等学校3年生)。

ひとこと ただなんとなく好きで取り留めなく勉強していた化学ですが、化学オリンピックを通じて、壮大な学問体系として認識することができるようになりました。人生を左右するかけがえのない体験だったと思います。

東京大学大学院 理学系研究科 化学専攻 修士課程 1年



那須田 桂 氏

講演⑤ 生物学オリンピック体験から

生物学オリンピック第25回インドネシア大会(2014年、バリ島)金メダリスト(静岡県立浜松北高等学校3年生)。

ひとこと 生物学オリンピックに参加して日本や世界にはたくさん面白い人がいると知ることができたのは、それまで狭い世界で暮らしていた僕にとってはとてもうれしい驚きでした。

東京大学 教養学部 理科三類 1年



中里 徳彦 氏

講演⑥ 地学オリンピック体験から

地学オリンピック第6回アルゼンチン大会(2012年、オラバリア)金メダリスト(横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校3年生)。2011年の地学オリンピック国内選抜にも参加。

ひとこと 地学オリンピックは日本や海外の優秀な同年代と交流し、自分自身や進路について考えるとても良い機会となりました。

東京大学 工学部 電子情報工学科 3年



東川 翔 氏

講演⑦ 物理オリンピック体験から

物理オリンピック第40回メキシコ大会(2009年、メリダ)金メダリスト(茨城県立水戸第一高等学校3年生)。2008年の物理オリンピック国内選抜にも参加。

ひとこと オリンピックでの経験は、物理の知識にとどまらず深く考える力とあきらめない忍耐力をくれました。オリンピックがなかったら現在までつながる私の成長はなかったと思います。

東京大学大学院 理学系研究科 物理学専攻 修士課程 2年